



BAIEIDO-TSUSHIN

# 梅栄堂通信

Vol.59

'12 夏・秋号

創業三百有余年 梅栄堂謹製

穏やかで、上質な  
リラックスタイムをお届けします。

**白檀好文木**

古くより、その鎮静効果が認められた  
白檀は「幸せの木」として、人々のこころを  
魅了してまいりました。

《白檀好文木》は、インドマイソール産の  
最高級白檀を基調に、丁寧に練り上げた  
秘伝のお線香です。大切なリラックスタイムに  
ぜひともお役立ててください。



●白檀好文木 標準小売価格 3,150円 (本体価格 3,000円)



創業三百有余年

## 梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号  
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672  
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>





◎ Profile ◎

米田 該典 よねだ かいすけ

所属：大阪大学大学院医学系研究科医学史料室  
薬学博士 神戸市生

専攻：文化財の材質調査と保存の科学  
薬用資源学 薬史学

薬学時代には正倉院薬物を調査し、博物館へ移箱後は文化財全般に枠を広げ、いつの間にか海外の文化財にまで手を広げつつある。

◀百万塔：経文を納めた経筒で、材質は不明である



《パフラヴィー文字》と呼ばれる古代ペルシャ文字の一種で、三〜七世紀にかけてイラン地方を支配したササン朝ペルシャで使用されていた文字であることが判明し、一方、焼印の文字は《ソグド文字》とすることで、刻まれた文字は「1/2」の数字を表していて、重量または貨幣の単位であろう

まだまだ研究の余地がある  
香材の世界

法隆寺に伝わってきた香木は白檀に限らず沈水香（沈香のこと）や青木香などがあり、それぞれは白檀のように多くの歴史を抱えていて、香の研究史や、従来の香についての言い伝えを覆しそうな物が少なくありません。それらは同時に様々な文書や記録等も伺うことができます。ここに示しました文書は法隆寺に伝わる『医薬調剤古抄』と名付けられた古文書です。今確認できる書は鎌倉時代の書です。でもその内容には、鑑真さんが伝えたと言われる薬の処方方を書いてあり、奈良時代の薬の処方方も記されておりありますが、それらは幾度も繰り返し書き直されたのだろうと考えられます。このような文書は

と解説されました。ソグド文字は中央アジアのサマルカンド周辺を根拠地としたソグド人の文字です。白檀そのものはインド産ですが、このように白檀には二民族の文字があり、それぞれの民族の生活地域は、ずいぶん離れています。当時の交易状況を併せて推測すれば、これらの白檀はインドから北方へ運ばれ、シルクロードを通過して西安から日本へはるばる運ばれてきた香木で、天上の佛の夢を運んできた品物とも考えられるものなのです。この両香木は何度か展覧会に出展されて来ましたが、それを見る度に、以前シルクロードの砂漠をラクダの背に揺られて童謡の「月の沙漠」を口ずさみながら歩いた事を思い出します。このように法隆寺の白檀は、そこに刻まれ、墨書された文字とともに、当時の白檀

少なくないと思うのですが、それらを薬物や香材の研究の立場から詳細に検討された事は多くはありません。私たちは、そのような史料をもっと深く調査されればなあ…と念じていますが、いざこの世界も同じですが、現在では香葉の歴史を研究する人が少なくて、今後のことを考えるたび、私の悩みの種にもなっています。とは言いながら、別の面では、研究の資料がどこにあるのかもわかっていないのも事実です。香木となると法隆寺の白檀や正倉院の蘭奢待のように巨大なのは珍しいことで、普通は小さく刻まれて大事に紙に包まれて保存されています。そしてそんな紙にときどき書き付けられた文字から、新たな発見をすることも少なくありません。香の研究は、香材そのものだけでなく、一緒に残された物

の流通のことを語るだけでなく、遙かな夢をも見せてくれる貴重なものです。たぶん世界中にこのような例証となる品物は他にはないと思われるます。因みに、それぞれの白檀には重量とともに書かれたものに、「佛塔、寺」とありますが、当時のお寺の資材帳（財産目録の一種）にも同様に書かれていて、寺内での所属を示しているものと考えられます。法隆寺宝物の白檀香、梅檀香は共に表面が艶やかな、黒光りし輝いています。これは、長年にわたってこすられ、白檀の油分で磨き上げられたのでしよう。およそ素木の色とは、かけ離れています。時間と保存が作り出した結果でしょう。両白檀は緻密で重質です。密度から見た重量、外観などは、現在の白檀とほとんど変わりませんでした。

がたいへん重要なことが多いものです。ただ、調査研究をしようと考える対象物を見つけることは、なかなか容易なことではありません。どうぞ、皆様の側に眠っているかも知れないものがあれば情報だけでもご提供を…とお願いしたい今日この頃です。《ご連絡は大阪大学大学院医学史料室まで》



▲奈良時代の薬の処方が記された『医薬調剤古抄』



梅栄堂  
香りの文献

きんもくせい  
金木犀



季節を知らせる甘い香り

秋風とともに、金木犀が香りだすと、その香りがどこから流れてくるのか、ふと探してみたくありませんか？ 甘く強い香りを放つ金木犀は沈丁花、クチナシと並んで、わが国では、「三香木」に数えられています。

金木犀は、中国南部が原産地の花木で、「桂花」と呼ばれています。世界的な景勝地として有名な中国の「桂林」を中心とする地域では、広範囲にわたり、この桂花（金木犀）が自生し、また栽培されています。桂林は、まさに「桂（金木犀）の林」という意味を知り、いままでと違った意味で興味深く感じられます。日本では香りのよい庭木

として親しまれている金木犀ですが、中国では、香りを楽しむ《桂花茶》や、《桂花酒》などおもに食用のかたちで親しまれています。

金木犀はモクセイ科、モクセイ属の常緑樹で、高さは三〜六メートル、日当たりを好む比較的丈夫な木で、秋に小さなオレンジ色の肉厚な花をかたまつて咲かせます。

日本への伝来は江戸時代と伝えられていますが、静岡県にある三嶋大社には、樹齡千二百年を超える、樹高十八メートルにもなる天然記念物の金木犀の大名があります。その他にも全国で金木犀の大名もあることから、日本への伝来には諸説があり、在来種が変化したものである可能性も考えられます。そういった意味では、まだまだ謎の多い花木といえるでしょう。

金木犀の香りは強いことから、以前は消臭剤として頻繁に使われていましたが、技術力が進むにつれ、まず科学的に除菌・消臭した上に、ソフトな香りに乗せた消臭剤が好まれるようになり、次第に使用されることが少なくなりました。

● 話題

梅栄堂の《伽羅古香》登場

フジテレビ「はねるのトびら」四百回放送記念スペシャルとしてオンエアした「100円ショップ有名人仲良し」決定戦！ スペシャルは、仲良し有名人二人がペアを組み、百円と高額の商品が混ざった中から次々に買い物をしていくという番組。その中の高額商品の一つとして、梅栄堂の超高額のお線香《伽羅古香》（五万円）が登場。ゲームも中盤になり、商品が減っていく中、タレントの天野ひろゆきさんがこわごわ、お線香を購入。選んだものが香木を使った高額商品と判明して、大ショック。材料が伽羅とわかって、しぶしぶお支払いとなりました。

N・Y国際ギフトフェア



▲天候もよく、盛況だった今回のギフトショー

二〇〇八年、初めての参加以来、今年で五年目、九回の出展を数えるギフトフェア。一月二十九日〜二月二日、今回もマンハッタンの会場で開催されました。本年は天候にも恵まれ、最大の動員数を記録したとか。梅栄堂のブースでは、おなじみの《好文木》をはじめ、人気の《風水香》等を展示。新しいパイヤーも増え大盛況でした。また高級線香への興味を示される方も多く、今後がますます楽しみなフェアとなりました。

フェイスブックを開設

アメリカでは二人に一人、日本でも、五百万人以上が参加しているという、ネット上のコミュニケーションツールが《フェイスブック》。梅栄堂ではこの度ホームページに、線香業界としてはじめての《フェイスブック》を開設。今後内容も充実していく予定ですので、勉強されていかれました。

ご利用をお待ちしています。  
長寿企業に学ぶ

韓国の十六名の方々と構成する《長寿企業に学ぶものづくり産業研修団》が現地研修のため、梅栄堂に本社されました。韓国には、長寿企業はたいへん少ないらしく、熱心に会社経営や、事業継承の内容などを勉強されていかれました。

● 商品紹介

香りの集大成をご進物にどうぞ。

遙か昔の中国・河北平原あたりに、すべての香りが集まる聚香園があったといわれています。古くから愛され続けた香りの魅力を求め、梅栄堂が創り上げたお線香、それが《聚香園》です。

沈香、白檀をはじめ、二十種以上の天然香料を集め、創り上げた深遠な香りをご進物としてぜひ先様にお届けください。



●短寸小把10把入塗箱  
10,500円(本体価格 10,000円)